

【みえの遺跡紹介】松阪市 阿坂城跡（国史跡）

阿坂城跡は、松阪市北部の標高 312m の山頂にある城です。城は南北朝時代には北畠氏により築かれていたらしく、当時の文書などにも名が見えます。室町時代にも、幕府に対して挙兵した北畠氏の拠点となっています。

阿坂城は、戦国時代末の織田信長の南伊勢侵攻時には、織田方と北畠方の戦いの舞台となりました。信長の家来であった木下藤吉郎は、城攻めの先駆けとなり、城からの反撃を受けて負傷しています（『信長公記』）。

城は「南郭群」と「北郭群」からなっています。南郭群は、山頂を削平して曲輪（将兵がたてこもる平坦地）を造り、その周囲を削り込んで急斜面とし、周囲の尾根を空堀で遮断しています。

北郭群は、椎之木城（しいのきじょう）とも呼ばれています。曲輪の周囲には土塁（土で造った城壁）があり、虎口（曲輪への出入口）も明瞭に残っています。

城は、「白米城」という名で地元で親しまれており、昭和 57 年に国の指定史跡にもなっています。

